

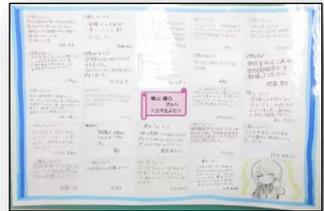


「心の声」を聴いて

2学期を締めくくる12月に入り、私たちは、さまざまな人の「心の声」を聴きました。

12月4日の全校朝礼で、二人の3年生が「受験を目前にした今の気持ち」を語りました。クラスのなかまや後輩たちをまっすぐ見て語った言葉の一部を紹介します。

「受験する高校を決める時期が近づいてくるほど、悩みも大きくなっていきました。そんなとき、学活の時間にグループで話し合いをしました。話し合う中でみんなが同じような不安や悩みを抱えているということを知り、またアドバイスをもらえたことで少し安心感が得られました。アドバイスをもらえると、そのことを意識して少しでも頑張ろうという気持ちになれます。私は、話すことで「不安や悩み」が「活力」に変わりました。〈中略〉これからなかまも協力して志望校合格を目標に頑張っていきます。」



懸命に受験という未知の怪物に立ち向かっていく姿に、聴いていた誰もが心動かされ、右のようなメッセージを贈りました。

12月6日には、高松商業高校野球部の長尾監督が27年ぶりに和光中に帰って来られました。生徒や教職員だけでなく、当時の和光中野球部員の皆さんも恩師に一目会いたいと駆けつけてくれました。当時も今も生徒が成長する姿を喜びとし、日々野球を通して人間教育を実践する長尾先生の一言一句に、私たちは心打たれました。講演後に一人一人が長尾先生に宛てて書いたメッセージには、次の言葉が記されていました。『失敗と書いて成長と読む』という言葉がとても心に響きました。失敗を恐れず挑戦していきたいです。(3年)「一番心に残った言葉は、『価値ある答えは“考えた答え”であり



“正しい答え”ではない』です。自分たちで考え行動することが大切だと分かりました。これから自分が上の立場になったら後輩(下の立場の人)から奪うのではなく『与える人』になりたいと思いました。(3年)「今日の講演で、『自分で考え自分で行動することの大切さ、それができる強さ』について知ることができました。今日の講演にはユーモアがあり、言葉では表せられない力強さ、深さを感じました。(1年)「今日のお話を聞いて、やっぱり尊敬される人間は自発的に行動を起こし、無理難題を押し付けず、よく笑う人間なのだということが分かりました。(2年)『チームは自分のもの』という言葉が印象的でした。自分がいる部やクラスのことを他人事にせず考えたいと思います。(2年)冬休みに皆さんから預かったメッセージを右のような形で長尾先生にお届けします。その時の様子については、後日また報告します。



12月15日、徳島県松茂中学校から森口健司先生をお招きし、「本心を語り合う人権学習の喜び」と題してご講演をいただき、その後、対話集会を行いました。森口先生はこれまでの42年間の教員生活の中で常に生徒の心に寄り添い、生徒同士が自分を語ることで信じ合い、支え合う存在となるよう支援し続けて来られました。この日、対話集会の口火を切ったのはやはり学校のリーダー3年生でした。全校生徒の前で自らを語り始めたその姿を、誰もが尊敬の眼差しで見つめていました。そしてその勇気のバトンが2年生に受け継がれ、ついには1年生までもが自分を語り始めたのです。弱く頼りない自分、そんな自分を命がけで守り無償の愛情を注いでくれる家族への感謝の気持ちを語った人もいました。弱みをさらけ出して語っても誰一人笑ったりしませんでした。後の感想に「今回は自分の考えが言えなかったけど、機会があれば今日みたいにきれい事なしで言いたいことを言えるようにしたいです。」とありました。すでに次のなかまにバトンは渡っています。

12月15日、徳島県松茂中学校から森口健司先生をお招きし、「本心を語り合う人権学習の喜び」と題してご講演をいただき、その後、対話集会を行いました。森口先生はこれまでの42年間の教員生活の中で常に生徒の心に寄り添い、生徒同士が自分を語ることで信じ合い、支え合う存在となるよう支援し続けて来られました。この日、対話集会の口火を切ったのはやはり学校のリーダー3年生でした。全校生徒の前で自らを語り始めたその姿を、誰もが尊敬の眼差しで見つめていました。そしてその勇気のバトンが2年生に受け継がれ、ついには1年生までもが自分を語り始めたのです。弱く頼りない自分、そんな自分を命がけで守り無償の愛情を注いでくれる家族への感謝の気持ちを語った人もいました。弱みをさらけ出して語っても誰一人笑ったりしませんでした。後の感想に「今回は自分の考えが言えなかったけど、機会があれば今日みたいにきれい事なしで言いたいことを言えるようにしたいです。」とありました。すでに次のなかまにバトンは渡っています。

